

令和元年度自己評価表

(様式1)

愛媛県立野村高等学校・本校(41)

教育方針	豊かな自然、地域社会にはぐくまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある教育を実践する。人格の完成を目指し、調和の取れた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の進展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成する。	重点目標	新しい時代をたくましく生き抜く人材の育成 ～ 夢をつくる 心をつくる 未来をつくる ～ 1 学校生活の基本的徹底を図り、社会から信頼される生徒を育てます。 2 確かな学力の定着を図り、希望する進路の実現を目指します。 3 部活動の活性化を図り、心身ともに健康で逞しい人材を育てます。 4 地域との連携・交流を重視し、地域を愛し、地域に貢献できる人材を育てます。 5 人権意識の高揚を図り、豊かな人間性と思いやりの心を持った生徒を育てます。 6 生徒一人一人を大切にしたい個別指導や教育相談の充実を図ります。 7 読書や芸術に親しみ、豊かな感性や自己表現力を育てます。
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
P T A 活動	保護者への情報発信及び学校との連携の充実	P T A総会の保護者出席30%以上 保護者との連携を深め、P T A活動の活性化を図る。 防災訓練の充実と消防署との連携を図る。	B	P T A総会出席者は60名で、30%以上の出席を達成できた。保護者は協力的である。 消防署からの助言は、次回の訓練のあり方や流れを再考するのに大いに役立っている。	保護者との連携を一層深めることができるように、総会や理事会の内容、開催時期等を検討したい。 訓練により積極的に参加できるように、手順などを見直す予定である。
学習指導	家庭学習の充実	1日平均3時間以上の家庭学習時間確保と自主的な取組により、学力の向上を図る。	D	調査時における、各学年の家庭学習時間の平均について、1年生2.4時間、2年生2.6時間、3年生3.0時間となっており、全体的に達成できているといえない。	各学年の主任、正副担任、教科担当者が協力して、家庭学習の意義について理解させ、時間の確保を促す。クラスで目標を立てたり、学習時間の少ない生徒と面談をしたりするなど、具体的な対策をとる。
	教科指導の充実	皆勤率学年平均60%を目指し、自己管理能力を育成するとともに、小テストや課題の精選等きめ細かな指導により、学力の向上を図る。	C	各学年の皆勤率は、1年生57.1%、2年生58.7%、3年生77.3%となっており、3年生は目標を達成できているが、1・2年生は達成できていない。	1年生の欠席については、疲れが出始める2学期により細やかな指導を行う。2年生の皆勤率が例年に比べて低かった。日頃から、生徒一人一人の動向に注意し、教科指導、生活指導ともに、個々にふさわしい指導方法を工夫する。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	心のもった挨拶の励行、身だしなみの徹底100% 交通安全の推進により、校外外での事故・事件・違反ゼロを目指す。	B	心のもった挨拶については、概ねできており外部の方からも評価をいただいている。身だしなみについては、大きな乱れはないが徹底までできていない。バイク通学の状況も違反、事故がなく良好である。	生徒会等が中心となって、心のもった挨拶運動を継続させる。家庭と学校がさらに連携し、身だしなみ合格率97%、事故・事件0件、いじめについては、ないことが望ましいが早期発見、早期解決に全力を尽くす。
特別活動	自主的活動の充実	県総体出場100名を目指すとともに、ボランティア活動、生徒会活動、学校行事に主体的に参加させる。	B	県総体出場64名で、目標値の達成はできなかった。しかし、部員減少の中で健闘している。部活動と勉強の両立について、学習時間に配慮した指導が必要である。	部活動の指導について、下校時刻や休日の部活動時間について周知し効率の良い活動を心がけるように呼びかけたい。また、生徒会活動においても、一層の盛り上がりを図るために、生徒の主体的な活動を支援する必要がある。
進路指導	進学指導の充実	進学目標達成の満足度100%を目指す。	A	第一希望に合格していない生徒が数人いるため、100%にはならないと思う。	今年度新たな取り組みを行っている最中なので、来年度も継続して、その効果を見極める。
		難関大及び国公立大5名以上の合格を目指す。	C	現在国公立大学2名合格である。	来年度は、模試の成績から見れば、目標を大きく引き上げる必要がある。
	就職指導の充実	卒業時の内定率100%を目指す。	A	就職希望者は全員合格	来年度も引き続き、人手不足が続くと思われるので、本年度同様に取り組んで行く。
保健管理	保健管理の充実	毎日の健康観察や毎月の安全点検・報告により、安全意識を高め、日本スポーツ振興センター申請件数減を目指す。	C	健康観察・安全点検等の未然に事故防止の取組により、振興センター申請件数は、減少傾向にあり、目標が達成できそうである。	日々の取組により、事故発生件数は、減少傾向にあるので、生徒の安全意識の向上を図りたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況（3学期末現在）	次年度の改善方針
読書指導	図書館指導の充実	「朝の読書の時間」の改善や呼びかけ等により、図書館の利用につなげる。読書を通じて読解力の向上を目指す。	B	図書の整理も進み、貸し出し冊数も昨年に比べると少し伸びている。ただ「朝の読書の時間」はクラスによって偏りがある。	授業での図書館の活用を促すなど、図書館に足を運ぶ機会を増やし、生徒たちになじみのある居心地の良い空間にしたい。また朝の読書を充実させることを目標としたい。
情報教育	ホームページの充実	ホームページをCMS方式にし、よりタイムリーに情報を発信する。また、個人情報保護に努める。	A	ホームページがCMS方式に変更され、タイムリーな更新ができています。	現在CMS方式ホームページの更新状況は良好である。共通認識を持ってタイムリーな更新ができるよう努めていきたい。
教育相談	教育相談の充実	生徒が抱える問題の早期発見に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	B	教育相談係・S L Aの相談や悩みの調査を窓口に学年団で細やかな対応ができており、不登校ゼロを目指している。	教育的配慮が必要な生徒や精神面が弱い生徒が増える傾向にあるため、教職員の連携・協力を密にし、個に応じた対応が今後も必要である。
特別教育	特別支援教育の充実	生徒の実態を把握し、S L Aや支援員との連携を図り、計画に基づいた支援を進めることにより、学校生活を円滑に送らせる。	A	生徒の家庭の実態を把握し、関係者で情報の共有ができた。S L Aや支援員の協力を得て、学校生活の円滑化を図るための計画的な支援ができた。	今後も生徒・家庭の実態把握に努め、学校生活の円滑化を図るための積極的な支援を行う。
同和教育	人権意識の高揚	年間5回以上の研修や研究活動等の人権委員会活動を活性化させ、人権意識を高めることにより、人権問題の解決を図る実践力を養う。	B	研修会は3回実施した。行事が多く目標の5回に達しなかった。小・中学生とのいじめに関する会議や育成園との交流会などで人権意識は高まっていると思う。	人権に関する意見発表会では、自分の体験を基にした意見が多く発表され、レベルの高いものであったと思う。また、人権コンサートも開催することができ、人権意識を高めることができた。次年度も更に意識を高めるための工夫を考えていきたい。
農業教育	農業後継者育成指導の充実	農業の担い手を5名以上育てる。	C	目標と実数とはかけ離れていますのでこの評価です。	5名は毎年難しい数字であります。目標としてそのための働きかけを課を挙げて取り組んでいます。今後もこの目標で取り組んでいきたいと考えています。
	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会の各大会で優秀賞1つ以上、全国大会で優秀賞1つ以上を目指す。	A	目標は達成することができました。今後は各大会の受賞者数を増やす努力をしていきたい。	今年も生徒の頑張り、指導していただいた先生方のおかげで、目標が達成できています。来年度も全国大会入賞をはじめ、この目標の達成に努めていきたい。
寮務	基本的な生活習慣の確立と安全管理の徹底	点呼、巡視による生活指導や設備などの点検を行い、寮内での事故をゼロにする。基本的な生活習慣が身につく、掃除なども率先して行えるような寮生を目指す。	C	寮内の事故等なく、生徒たちは無事に寮生活を送ることができた。	寮内の清掃活動などがもっと率先してできるようになってほしい。共同スペースを汚さないだけでなく、自分の部屋同然にとらえ、気が付いたらきれいにする習慣を身につけてほしい。
施設管理	教育環境の整備充実	生徒の安全と学校運営の充実に向けて、修繕箇所への早期対応と要望への取り組みを図る。	B	豚コレラ対策の防護柵、温室管理室へのLAN配線増設に取り組めた。学校全体の努力により、電気の基本数値を下げることにつながり、ゆとりを持って物品購入の対応が出来た。	施設の長寿命化に向けた計画に沿って取り組むとともに、学習環境の充実を図る。グループウェアの活用も含め、教職員の事務負担軽減を図る。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。